

京都教区時報

<https://www.kyoto-catholic.net/>

カトリック京都司教区
広報委員会

京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

2026年 司教年頭書簡を受けて



©Vatican Media

第一回 社会教説

大塚司教は、年頭書簡のなかで、「教皇レオ十四世は、この名を選ぶにあたり、近代カトリック教会において社会問題に最初に取り組んだ教皇レオ十三世（1879-1903年）への敬意を表しています。教皇レオ十三世は、回勅『レールム・ノヴァールム（新しいことごと）』を通して労働者の権利を守り、カトリック社会教説の基礎を築いたことで『社会教説の父』として知られています」（年頭書簡一）と書かれています。その後、歴代の教皇によって、次々と、社会教説が発表されていきました。

そして、1962-65年に開催された第二バチカン公会議の最後に発表された「現代世界憲章」の序文には、次のように書かれています。「現代の人々の喜びと希望、苦悩と不安、とくに貧しい人々とすべての苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、苦悩と不安でもある。真に人間的なことがらで、キリストの弟子たちの心に響かないものは何もない。なぜなら、彼らの共同体は人間によって構成されているのである。彼らは、キリストにおいて一つに集められ、父の国に向かう旅路において聖霊によって導かれ、すべての人々に伝えるべき救いのメッセー

ジを受けているからである。したがってこの共同体は、人類とその歴史とに現に深く連帯していると実感している」。

京都教区では、

1981年に「京都教区ビジョン宣言文 社会と共に歩む教会」が発表され、冒頭で次のように書かれています。「教会は『社会とともに歩むもの』と、私たちは考えます。かつて、教会は世俗社会とは、全く対立するもの、と考えられたことがありました。しかし、人々の生きている場所こそ、この社会であり、教会はこの社会のただ中にあります。私たちは、この社会のあり方に迎合するのではなく、社会の中、人々の中にある福音的なものを、キリストのメッセージ、みことばの種として受け入れ、それに協力すること。その反面、社会の中にある非人間的なもの、福音の精神に反するものに対しては、はっきり声をあげ、賢明にこれを糾すことが必要であるといえるでしょう。そして社会の必要としていることに耳を傾け、福音の精神をもって、これにこたえていきましょう」。

私たちは社会とともに歩みながら、現代社会を福音の精神にふさわしいものに変えていくことが求められています。

京丹ブロック担当司祭 瀧野正三郎

大塚喜直司教年頭書簡
「教皇レオ十四世 希望と一致の橋をかける牧者」



2
2026



京都教区ビジョン宣言文
主題 社会とともに歩む教会



カトリック京都司教区

2026年度 唐崎祈りの家企画 黙想会予定

所在地／〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-4-1 交通：JR湖西線唐崎駅下車徒歩15分

No.	タイトル		日程	講師・ヘルパー
①	8日間の黙想	9泊10日	2026年5月21日㊦夕食 ～30日㊦朝食	講師：和田 誠 (カルメル修道会司祭)
②	8日間の黙想	9泊10日	2026年6月9日㊦夕食 ～18日㊦朝食	講師：中川 博道 (カルメル修道会司祭)
③	8日間の霊操	9泊10日	2026年10月14日㊦夕食 ～23日㊦朝食	講師：サヴィオ 金亨郁 (イエズス会司祭)
④	8日間の霊操 ～エコロジカルな回心に向けて～	9泊10日	2026年11月2日㊦夕食 ～11日㊦朝食	講師：瀬本 正之 (イエズス会司祭)
⑤	2泊3日の黙想会	2泊3日	2026年7月3日㊦夕食 ～5日㊦昼食	講師：和田 誠 (カルメル修道会司祭)
⑥	キリスト教的ヴィパッサナー瞑想の黙想	3泊4日	2026年4月16日㊦夕食 ～19日㊦昼食	講師：柳田 敏洋 (イエズス会司祭)
⑦	日々の生活の中で祈る 黙想会	2泊3日	2026年3月24日㊦夕食 ～26日㊦昼食	講師：伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)
⑧	祈りの週末 ～祈りを学びたい方のために～	2泊3日	2026年7月18日㊦夕食 ～20日㊦昼食	ヘルパー： 北村 善朗(京都教区司祭) 山本 久美子 (聖ヨゼフ修道会会員) 山田 千鶴(カロンデレットの 聖ヨゼフ修道会会員)
⑨		2泊3日	2027年1月9日㊦夕食 ～11日㊦昼食	
⑩	聖書で祈る個人指導の 5日間の黙想会	6泊7日	2026年6月22日㊦夕食 ～28日㊦昼食	ヘルパー： 長谷川 和子(聖心会会員) 山本 久美子 (聖ヨゼフ修道会会員)
⑪	聖書で祈る個人指導の 8日間の黙想会	9泊10日	2026年11月23日㊦夕食 ～12月2日㊦朝食	

- すべての黙想会の開始時刻は17時です。16時より受付を開始いたします。
- まれに日程変更の可能性がありますので、京都教区ホームページで最新情報をご確認ください。右のQRコードからも確認できます。
- 個人やグループで企画された黙想会、研修会(定員15名)も受け付けています。京都司教区本部事務局までお問い合わせください。



◆お申し込み・お問い合わせ◆

No. ①～⑨ TEL:075-211-3025(代表) 京都司教区本部事務局黙想会担当(平日9～17時)
E-mail: karasaki_maryknollhouse@kyoto.catholic.jp

No. ⑩・⑪ 部分参加も可能ですが、全日程参加の方優先
TEL:075-223-3336 福音宣教企画室 Sr. 山本(火・木・金10～16時)
E-mail: sr.yamamoto@kyoto.catholic.jp

「知る」ことから「出会い」へと 黙想への招き

私たちの日常は、常に何かの「情報」に溢れています。スマートフォンを開けば世界のニュースが飛び込み、仕事や生活の連絡が絶え間なく届きます。そんな日々の中で、ふと立ち止まり、自分自身の信仰生活を振り返るとき、私の中に一つの気がかりが浮かび上がることがあります。それは、「私はイエス・キリストについて『知って』はいるが、本当に『出会って』いるだろうか」という問いです。

誰かのプロフィールを知っていることと、その人と顔を合わせ、言葉を交わし、心を触れ合わせることは、まったく別の体験です。ある人について多くの情報や知識を持っていることと、その人との個人的な交わりがあることの間には、大きな隔たりがあります。同様に、イエス・キリストのプロフィールを知っているだけ、イエス・キリストについてたくさん知識を持っているだけにとどまっていたら、信仰が単なる情報や知識の蓄積になっってしまうかもしれません。このことは、私自身も含め、現代を生きる多くのキリスト者が抱える静かな渇きではないでしょうか。

また、キリスト教に馴染みのない方にとっても、イエス・キリストという存在は、教科書で習った歴史上の偉人、自分

からは遠い存在として認識されているかもしれません。

しかし、もしイエス・キリストが、あなたの人生に深く関わり、愛を注いでくださる「生きた存在」である方だとしたらどうでしょう。

日常の喧騒から少し離れ、静寂の中で、生きたイエス・キリストと親しく向き合う機会、そのひとつが「黙想会」です。2026年度、京都教区は、右ページのとおり黙想会を企画しました。会場は、京都からも近い、大津市唐崎にある「唐崎祈りの家」です。眼前に琵琶湖、背後に比叡山と、豊かな自然の恵みに抱かれたこの場所は、静謐な美しさに満ちており、まさに「出会い」のために用意された聖なる空間と言えます。

黙想中、個室で静かに聖書を紐解き、また聖堂で沈黙のうちに祈る時間、時には外に出て広い庭をゆっくりと散策しながら、またはベンチに体を預けて、寄せらる波に耳を澄ませ、吹く風の清らかさを感じる時間、そのような穏やかなひとときは、日常で凝り固まった心を解きほぐし、神様の声を聞くための準備を整える助けとなるでしょう。



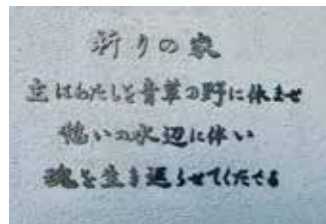
祈りの家から望む湖の朝日

な修行の場ではなく、また、難しい神学を議論する場でもありません。それは、イエス・キリストと同じ屋根の下で過ごし、食事をし、庭を歩く、「友人との旅」のようなものです。

黙想会は真理を求め、静けさを必要としているすべての方に開かれています。参加にあたって、「自分にはまだ早いのではないか」「聖書の知識がないから」と心配する必要はありません。カナの婚宴では、ただの水が、神様の手で最上のぶどう酒に変えられました。同じように、私たちそれぞれが抱える不安や弱さを含めた「ありのままの自分」を、神様は豊かな「新しい命」へと変容させてくださるはずで、神様はすべての人をご自分の食卓に招いておられます。

今年もまた「唐崎祈りの家」に皆様をお迎えできることを、担当スタッフ一同、感謝のうちに心待ちにしております。知識としてのイエス・キリストから、あなたと共に歩まれるイエス様へ。その「出会い」のために、一步を踏み出してみませんか。

京都司教区本部事務局 黙想会担当
古林朋子



祈りの家 玄関に掲げられた聖句

正義と平和協議会現地学習会 渡来人歴史館と大津教会を訪ねて

11月8日(土)

暖かい日差しのもと、22名の参加者がJR大津駅前に集合しました。そして5分ほど歩いたところに渡来人歴史館があります。大澤重人さん(渡来人歴史館専門員)の説明を受けながら展示を見ました。

最初に大きな地図があり、人類はアフリカで誕生し、約7万年前に世界へ拡散したことが示されていました。日本列島へは氷河期に到達し、その後の文化や文明、文字、宗教は主に大陸から朝鮮半島を経由してもたらされました。古代において中国は先進

国であり、日本は朝鮮半島を紹介して多くのことを学びました。

また、世界地図を逆さに見ることで、日本海側が文化の「表玄関」であり、



海が人々や文化の往来する道であったという視点が得られました。

渡来系弥生人

弥生時代、中

国の戦乱を逃れた人々が稲作技術を日本列島に伝え、渡来系弥生人となりました。彼らは先住の縄文人と混血し、現在の日本人を形成したということです。

5世紀以降、さらに多くの人々が日本に渡ってきました。彼らは鉄の生産、乗馬、須恵器などの先進技術をもたりました。また、彼らの知識や技術は、日本の律令国家の基礎固めに重要な役割も果たしました。彼らは日本各地に定住し、高麗神社や関連地名などの痕跡を現代に残しています。また、滋賀県は、奈良や大阪に劣らず渡来人が多く住んだ地域だったということも新たな



発見。平安時代の征夷大將軍・坂上田村麻呂や天台宗の開祖・最澄も渡来人の末裔であり、日本の歴史に大きな影響を与えたとのこと。日本は大陸からの文化を一方的に受け入れるだけでなく、例えば渡来人がもたらしたかまどは根付いた一方、床暖房であるオンドルは気候の違いから根付かなかったように、文化を取捨選択しながら取り入れたようです。

陶工や学者などが日本へ

やがて時代が下り、豊臣秀吉による朝鮮出兵は朝鮮に甚大な被害をもたらし、多くの陶工や学者などが日本へ連れてこられました。九州や山口の著名な陶磁器産地の多くは、朝鮮の陶工たちによって始まっています。江戸時代に入ると、朝鮮通信使の往来が始まり、約200年にわたり友好関係が続きましたが、朝鮮半島から日本へ渡る使節のみが派遣されました。これは、朝鮮側の侵略に対する不信感からであったとのこと。

大韓帝国を併合し、植民地支配

近代に入り、日本は1910年に大韓帝国を併合し、植民地支配を開始します。日本の植民地政策によって土地を失

い、職を求めた人々や、戦争末期の徴用によって、1945年の敗戦時には200万人以上の朝鮮人が日本に住むという状況になりました。彼らは日本国籍を与えられながらも、憲法の適応外にあり、不平等な状態に置かれていました。敗戦後多くの人々が帰国しましたが、数十万人が日本に残りました。そして1952年のサンフランシスコ平和条約発効に伴い、彼らは一方的に日本国籍を剥奪され、外国人として多くの公的制度から除外されました：ここまで聞くと、過去に恩恵を受けたにもかかわらず、その人々に対して、裏切ったような気持ちになり、悲しく残念に思いました。

日本人も元を辿れば大陸から来た人々で、皆同じ人間ではないかと思うと、神はよきものとして人をつくり、祝福されたことを思い出しました。人は神によって等しく愛されていたはずですが、自分



と他者の間に境界線を引き、争いや差別を生みました。現代社会においては「〇〇ファースト」といった排外主義傾向が見られます。

古代の日本では渡来人を排除せず、彼らもまた自らの文化を一方的に押し付けることなく、重層的な共生関係を築いていたということを聞くと、今でも人は「互いに愛し合う」ことができるはずではないかと思うのですが…。

その後訪問した大津教会での分かち合いでもそのことを話しました。「私たちを平和の道具にしてください」と湖畔の聖母に取り次ぎをお願いしました。

京都教区正義と平和協議会事務局



大津教会聖堂

—— 今年度の活動予定 ——

■ 京都教区正義と平和協議会
＊学習会

「カトリック教会の中での外国人との共生（仮題）」4月18日

＊第19回戦争と平和写真展「沖縄・フクシマ・ヒロシマ」8月8日、9日

＊現地学習会

「日本の農業問題について」11月

＊機関紙「てくてく」発行

■ 大阪教会管区

部落差別人権活動センター

＊学習会

「世良田事件100年と今日的排外主義」

5月16日

講師・谷元昭信さん

＊シンポジウム

「差別が冤罪を生む」10月17日

シンポジスト・徳田靖之さん（弁護士）

訓覇浩さん（住職）

それぞれの行事が近づきましたら、京都教区時報や教区のHPに詳細を掲載しますのでご確認ください、多数ご参加ください。

「水俣病」という問い

〜実川悠太氏の講話をお聞きして〜

2025年11月27日



京都教区司祭司牧者研修会が唐崎メリノールハウスで開催され、NPO法人水俣フォーラム代表・実川悠太氏から水俣病についてのお話を伺いました。これまで水俣病についてごく表面的にしか理解していなかったことを痛感し、多くの新しい認識を得る機会となりました。実川氏は50年以上にわたって水俣病患者の方々と深く関わり、その苦しみや悲しみ、そして人間としての尊さに向き合ってきた方です。体験に裏打ちされた言葉には、深い説得力があり、強い感銘を受けました。

水俣病は、自然界にはほとんど存在しないメチル水銀が原因で起こる神経性疾患です。チッソ水俣工場から排出された廃水に含まれたメチル水銀が海の生物に蓄積し、その魚介類を食べた人々が発症しました。メチル水銀は神経細胞に強く結合するため、一度発症すると根本的な治療がなく、極めて深刻な病気です。原因が1956年に判明していたにもかかわらず、1968年まで排水が続いたことが、被害を拡大させました。チッソ城下町としてのあらゆる繁栄を

享受していた当時の水俣では、チッソは地域社会を支える圧倒的な存在であり、住民の多くが深い親しみと忠誠心を抱いていました。水俣では単に「会社」と言え、それがチッソを指すほどの存在感なのだそうです。そのため賠償を訴える被害者に対し冷たい視線が向けられるなど、地域の人々に複雑な心情があったというお話にも、深く考えさせられてしまいました。

講演後、一緒にお弁当を食べていた実川氏の電話が鳴りました。取り出されたのが折りたたみ式携帯だったので、「ガラケーなんですね」と何気なく言うと、「これが慣れてて使いやすいんですよ」と笑顔でおっしゃいながら、席を立たれました。その後ふと思いました。スマホの便利さに依存し、それが心身の健康に害悪を及ぼしているという事実を把握しながらも、利便性を簡単に手放すことはできないという、人間の弱さ。それは、今回のお話を伺って、痛切に抱かされた思いでもあり、もちろん環境汚染問題とは、加害と被害の構図はまったく異なりますが、「わかっていてもやめられない、



やめない」という人間理解の点からは通じるものが見え、この点は霊的にも極めて重大なテーマのはずです。

高度な技術を有したチッソの企業力が、私たちに経済的繁栄をもたらしたということや、今の便利で快適な暮らしはチッソの開発に由来する製品に支えられているというお話こそ、決して聞き逃してはいけないものでした。まさに私達には「チッソ城下町」で暮らしているのです。水俣病で父を亡くし、自らも発病した漁師の緒方正人氏が、壮絶な苦しみと葛藤の後に語ったという、「チッソは私だった」「チッソこそ救われねばならない」という言葉が、天啓のように迫ってきて、心に鳴り響いています。今回の講話は、人間の尊厳と弱さ、技術の恩恵と影、そして社会の選択の難しさを深く考えさせられる貴重な時間となりました。ガラケーが鳴った後、実川氏はすぐにお迎えのタクシーで帰られました。またお会いする機会があれば、スマホを使用しない本当の理由を教えてくださいたいと思います。

※「水俣病」という問い：今回の講話で実川氏よりお配りいただいたレジュメのタイトルです。

※「京都教区司祭司牧者研修会」は、年に4回開催し様々な学びを提供しています。

広報委員会担当司祭 菅原友明

京都教区物故者祈念ミサ

2025年11月2日「死者の日」。大塚喜直司教の司式で、京都教区の全ての物故者のために、追悼ミサが捧げられました。

昨年より、河原町教会司教座聖堂にて行われています。

200名近くの方が聖堂に集まり、それぞれの召された縁者の方たちを想い、祈りをともにしました。



亡くなったわたしたちの兄弟姉妹、み旨に従って生活し、今はこの世を去ったすべての人をあなたの国に受け入れてください。



いのち・平和・環境の日の集い

毎年『貧しい人のための世界祈願日』（11月第3日曜日）前日に開催される「京都教区いのち・平和・環境の日」。昨年は11月15日①「食」をテーマにカトリック奈良教会で行われました。

はじめに、奥村豊神父（三重南部ブロック担当司祭）のビデオ講演で日本の種子生産や、人口問題と食糧生産についての問題提起がありました。

その後のパネルディスカッションでは、奈良ブロックの信徒3名が、それぞれ「無農薬米作りの挑戦」「ベトナム人にとつてのお米」「今の若者の食事」について発表してくださいました。

日頃当たり前前に食べているお米について考えさせられる、よい機会となりました。

奥村神父の講演はこちらから↓



パトリック・バーン司教帰天75年追悼ミサ

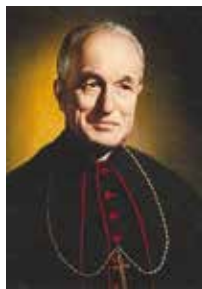
京都教区初代教区長パトリック・バーン司教の追悼ミサが、11月23日②高野教会において行われました。

高野教会では、毎年バーン司教の帰天日（11月25日）に近い主日ミサの中で、バーン司教の追悼の意向でミサを捧げています。

今年は、バーン司教帰天75年にあたり、大塚司教の司式でミサが捧げられました。

大塚司教は「バーン司教さまは、戦中、戦後の困難と苦難の中、この京都の地において福音宣教にまい進され、のちに朝鮮半島に渡り病気になる命を捧げられました。その生涯は、

まさに希望の巡礼者であったと思います」と語り、皆でバーン司教に感謝の祈りを捧げました。



教会学校研修会 「子どもたちに聖書を楽しく伝えたい！」

11月1日㊥

「子どもたちに聖書を楽しく伝えたい！」をテーマに研修会を行い、8ブロック16小教区から30名の教会学校リーダーが参加しました。昨年の研修会後に行ったアンケート結果の中から、「聖書をどのように子どもたちに教えるか？」という課題を取り上げ、東京教区荻窪教会の信徒で、教会学校リーダーを学生時代からされている、「スヌ校長のかいぬし」こと下永裕基さんを講師にお招きしました。下永さんは、京都教区の多くの教会の子どもたちに読まれている、オリエンス宗教研究所発行「週刊こじか」にスヌ校長名義で「クイズで親しむ聖書のことば」を2024年まで連載されていました。

研修会に先立ち、「子どもたちに聖書を伝えるうえでどのような工夫をしているか。どのような問題を感じているか」について、各小教区から事前メッセージをいただきました。各小教区の教会学校で、それぞれいろいろな工夫をされており、真摯に子どもたちに向き合っておられることがよくわかりました。その事前メッセージを分かち合いながら、①いま、何をどう伝えているのか②私自身が「みことばを楽しんでいるか」③「どう楽しく伝えるか」の講話を聴き、深めていきました。



子どもたちに聖書を伝えるために、まずリーダーが「みことばを楽しむ」こと、「みことばに親しむ」ことがとてもだいじだということを、たくさんの事例や工夫例を提示していただきながら楽しく学んだ研修会でした。

信仰教育委員会

京都・チェジュ教区 中学生平和学習 唐崎メリノールハウス 11月8日㊥～9日㊦

私たちリーダーは、今回の京都・チェジュ教区中学生平和学習に向けて、9月から中学生と共に準備をしました。

11月の学習会本番では、中学生同士が仲良くなるだけでなく、お互いの国について知り、文化交流などをしました。また、言語の壁を乗り越えて分かち合いができ、レクリエーションの時には、みんなが助け合いながら楽しく過ごせました。

京都教区の中学生は「第二次世界大戦の悲劇」について発表をし、チェジュ教区の中学生は「済州島四・三事件」について発表をしました。そして、大塚司教様の『平和は自分たちで作る』という言葉が、みんなの心をさらに一つにしました。

中学生同士だけでなく、リーダーと中学生も交流ができ、2日間という短い間でしたが、それぞれの平和について学習をし、一人ひとりにとって意味のある時間が過ごせました。



今回の学習会のために、事前準備をしてくださったリーダーのみなさんや、神父さま方、また、今回参加してくださった京都教区の中学生、チェジュ教区の皆さん、本当にありがとうございました。

中学生会リーダー 菊川マリア

第26回 京都司教区 宣教司牧評議会 2025年12月13日㊥ オンラインミーティング

大塚司教をはじめ、ブロック司牧担当者の代表、ブロック代表役員、教区の各委員会の担当者らが出席(全23名)し、今年度の振り返りと、次年度の活動について分かち合いました。最初に各ブロックから、「今年の喜ばしかったことと課題」の発表があり、それを受けて司教が総括を行いました。その中に「小さな一歩を踏み出すならば、教会は再び希望の巡礼者として歩み続ける共同体となることができます。これこそ、京都教区が行う『共同宣教司牧』とシノドスの教会づくりの歩みです。(中略)小さな祈りの集い、対話の場、奉仕の積み重ねを通して、教会が地域と社会の中で希望のしるしとなる道が今、私たちに問われています」という言葉があり、心に残りました。聖年が終わっても「希望」を抱いて歩み続けたいと思います。

その後、司教から①2026年司教年頭書簡趣意書②今後の信徒カテキスタについて③子どもと青少年の司牧活動の留意点④2026年度教区予定についてのお話、教区の各委員会から活動の報告と予定、教区事務局からお知らせがあり、盛りだくさんな2時間でした。評議会を取材して、小教区として、ブロックとして、教区として、現状を見つめ、課題を分析し、神のみ旨にかなう道を歩めるように努力し、祈りながら進んでいると感じました。

宣教司牧評議会の資料や大塚司教の総括は、京都教区HPで閲覧できますので、教区の現状を知るために、どうぞ積極的にご覧ください。右記のQRコードからスマートフォンで読みこんでもご覧いただけます。

広報委員会



Y E S 2025 報告

2025年11月22～23日、京都市伏見区の桃山教会にてY E S 2025を開催いたしました。二十歳前後の参加者がほとんどで、かなり若い年齢層の集まりになりました。なにやら今後の青年活動がさらに活発になる気配がしております。私としても活気あふれる青年達と交流することができて大変嬉しく、開催して良かったと思いました。

Y E Sは毎年司教様をお迎えし、講話をしていただいております。今年のY E Sのテーマは「希望のロープ」でした。今年は聖年であることも踏まえ、司教様の講話では、この「希望」についてのお話を聞けました。その後の分かち合いやテゼも、それぞれ実りのある時間になりました。

翌日は桃山教会のミサに与りました。ミサ後はクリスマスの飾り付けがあり、イエス様をお迎えする準備を皆とともにできました。



最後に、桃山教会の皆様と一場神父様をはじめ、今回の開催を支えてくださった方々に心より感謝申し上げます。引き続き我々の青年活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

青年の皆さん、2026年も様々なイベントを企画していますので、青年センターのSNSをご確認の上、ぜひ顔を出してくださいね！

西院教会 栗井 幹

お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教 区

病者高齢者奉仕講座

「傷ついた人生を抱きしめて

～身体障がいと永遠のいのち～」

講 師：奥村 豊神父（三重南部ブロック担当）

日 時：2月12日㊦ 13:30～

場 所：河原町カトリック会館大ホール

受講費：500円 申込不要

主催・問合せ：福音宣教企画室

075-223-3336(火～金10:00～16:00)

fukuin@kyoto.catholic.jp

青年のための黙想会

講 師：一場 修神父（マリスト会）

対 象：青年（18～35歳 高校生参加不可）

日 時：2月28日㊦ 10:00～16:00

場 所：聖ドミニコ女子修道会 京都修道院

申込・問合せ：信仰教育委員会

shinko_kyouiku@kyoto.catholic.jp

■教区時報4月号の原稿締切日2月23日㊦

大阪高松教会管区

部落差別人権活動センター

対話集会「寝た子を起こして、仲良くごはん」

日 時：2月23日㊦㊧ 14:00

場 所：河原町カトリック会館大ホール

発題者：川崎那恵さん

参加費：500円 申込不要

集会後の交流会：3,000円 25名まで（要申込）

申 込・問合せ：bukatu@kyoto.catholic.jp

Tel/075-223-3340 Fax/075-223-3371

修 道 会

聖ドミニコ女子修道会 みことばを聴こう

日 時：2月11日㊦㊧ 13:00～16:30

テーマ：聖ドミニコの面影

講 師：米田彰男神父（ドミニコ会士）

会 費：500円 どなたでもご参加ください

場 所：京都市上京区河原町今出川梶井町448

聖ドミニコ女子修道会 京都修道院

申 込：Sr.遠藤よし子 endoh@dominic.or.jp

Tel/075-231-2017 090-7667-0114

Fax/075-222-2573

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、「点訳ネット・レジナ」笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。

Tel・Fax/072-722-0271

諸 団 体

京都キリシタン研究会

日本26聖人殉教者記念ミサと特別行事

日 時：2月7日㊦ 14:00

場 所：望洋庵（西陣教会 敷地内）

司 式：ホルヘ神父（京丹ブロック担当）

ミサ前下記①②特別行事を開催いずれかに参加可能

①「殉教血史 日本二十六聖人」（1931年制作80分）DVD鑑賞12:00～望洋庵

②日本二十六聖人市内引き回りルート巡礼
集合12:15フランススカン・チャペル
（四条岩上通り下ル）→四條堀川→油小路
通り→元本能寺跡→小川牢跡→一条戻
り橋→西陣教会（巡礼一番教会）

ミサおよび特別行事いずれも事前の申し込み不要

問合せ：090-2381-4630 古澤吉次

京都カトリック混声合唱団

2月8日㊦ 14:00 聖歌練習

2月28日㊦ 17:30 練習後ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂 団員募集中

問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェレステ（女声コーラス）

練 習：2月12日㊦ 10:00、26日㊦ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊 新会員募集中

問合せ：駒井和子 075-561-5971

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話ミサと総会

日 時：2月17日㊦ 10:30 受付、11:00

手話ミサ、昼食後総会・交流会～

14:00 終了予定

弁当・飲み物持参

場 所：河原町教会地下

問合せ：鎌田 修 090-1967-5636

kamadaasamu@gmail.com

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）

2月主テーマ「隣人愛」

KBS京都 ㊦～㊧ 朝5:55

㊦ 朝5:15

ラジオ関西 ㊦～㊧ 朝5:00

㊦ 朝6:05

毎日放送 ㊦～㊧ 朝5:45

㊦ 朝4:55



カトリック京都働く人の家

読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日 時：2月8日㊦ 九条教会7時ミサ後

場 所：九条教会内働く人の家

対象者：どなたでも

問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831

